

サステイナブル新聞

発行者
西武学園文理小学校
3年 松村 佳明

発行日
2025年8月

僕と国分寺線のサステナ車両8000系

国分寺線のサステナ車両は五月三十一日にデビューしました。小田急電鉄8000形↓西武8000系になりました。僕は、鷹の台に住んでいて、毎朝、サステナ車両を見て、時々、乗る事もあります。小田急8000形の好きなところは、スマイルトレインのような、特徴的なデザインです。そのカラーの理由は、「永遠」と「繁栄」です。もう一つの理由は、西武の企業カラーだからです。そもそも、「サステナブル」とは、「sustainable」持続する「able」できるを組み合わせた言葉で「持続可能な」という意味です。今では、自然環境を守りながら限られた資源を効率的かつ循環的に使い、自然と人間が共生していくような、持続可能な社会を示す言葉としても使用されています。これから、サステナブルな鉄道を徹底調査していきましょう！



なぜ西武が小田急8000形を購入したのか

その理由は、省エネルギー化とコスト削減のためです。その一つはVVVFインバータ制御装置です。この装置があればいままでの消費電力を、およそ6割抑えられるといえます。しかし、西武の車両のおよそ3割には、まだ装備されていません。一から新車を作るより、現存の車両を改修したほうが時間短縮できて、製造時に出るCO2も少なくなるからです。大手鉄道各社は環境経営力を入れていて、消費電力の削減を課題と捉えています。

東急9000系・9020系も、現在東急テクノシステムで改造中で、今後西武に導入される予定です！

東急電鉄は、大井町線各駅停車用の車両として導入の準備を進めていた5両編成の「6020系（以下、本車両）」の営業運転を2025年7月2日（水）から開始しました。さらなる快適性と安全性を追求した本車両は、2027年頃までに18編成計90両を順次導入し、現在大井町線の各駅停車で使用している9000系および9020系の全てを本車両に置き換える予定です。



まだ、「小田急車両」と書いてある



座席は小田急時代とあまり変わっていない



東急大井町線の新型車両6020系



ドア横の青いシールは、各駅停車ということをアピールしている。



・りんかい高速鉄道70-000形



・E231系



・相鉄20000系



・都営6300形



・小田急1000系



・南海電鉄2000系



・E217系



・東急5000系



・東京メトロ9000系



・JR東日本の209系



・2000系

その他のサステナブルな鉄道たち

魚のすみかになった電車

ニューヨーク地下鉄
2008年5月16日、40年間ニューヨーク市内を走り続けた44台の地下鉄車両が、メリーランド州オーシャンシティ沖から34キロ離れた海底に沈められました。魚を増やし、釣り客を呼び込む地域活性化と車両廃棄のコストダウンを兼ねたこの人工磯プロジェクト、実は初めての試みではなく、すでに1200台もの電車がニュージャージー州やデラウェア州付近の海底に沈められているのです。

名古屋市電
市民に長らく愛されたが、バスや地下鉄に利用客が移り、廃止に。今から約50年前、役目を終えた市電は、愛知県の名古屋市に、漁礁として沈められることになった。その後、度々メディアが海底調査を行ったが、一度もその姿をとらえたことはなく、海底に眠る市電は「幻の電車」と言われるようになる。

そんな中、我々はどうしても海底に眠る市電を見たいと熱望する青年と出会う。熱意に押され、港付近で取材を続けるも、地元漁師や専門家は、「市電は消えてなくなった」、「遠くへ流されてしまった」と口をそろえる。

しかし、諦めかけたところに、「市電の在り処を知っている」という釣り船店の主人と遭遇。なんでも市電の沈む場所を記録しているというが、本当なのか？一縷の望みを託し、愛好家の青年と、ダイバー、水中ドローン操縦士を連れ、太平洋へ探索に出ることに。広大な海を相手に、気が遠くなるような調査が続いていると、まさに奇跡といえる光景が目の前に現れるのであった。



名古屋市電



ニューヨーク地下鉄



西武武山ソーラーパワーステーション



西武山口線(レオライナー)の現役車両



スイスの線路内太陽光発電

編集後記

他社から他社へ、全くかんけいがない鉄道会社でかつやくしてから、じゅみようがつきることがわかりました。ようするに、鉄道は生まれかわりをくりかえしていることに気がついてうれしい気持ちになりました。みなさんも、ぜひサステナ車両に乗ってみてくださいね。

西武鉄道は3月31日、多摩湖駅（東京都東村山市）と西武園ゆうえんち駅（埼玉県所沢市）を結ぶ山口線の「レオライナー」を、4月1日から100%自社の太陽光発電により運行すると発表した。これは、運行に要する電気使用量のすべてを、西武が運営する「西武武山ソーラーパワーステーション」が発電する環境価値が付いた電力で賄うもので、山口線では年間約300セリだったCO2排出量を実質ゼロにすることが可能になるという。

神奈川県横須賀市に設けられている西武武山ソーラーパワーステーションは、22019年2月から稼働が始まった太陽光発電所で、約13.6haの敷地に3万11080枚の太陽光パネルを設置。年間発電量は一般家庭約2660世帯分に相当する約956万kWhで、西武グループが保有する9カ所の発電所では最大規模を誇っている。

スイスでも、世界初の線路太陽光発電が、開始されました。